

留学先国名 : フィンランド

留学先学校名 : Lyseonpuiston lukio

留学期間 : 平成 26 年 8 月 3 日 ~ 平成 27 年 7 月 12 日

フィンランドに来て半年が過ぎました。時間の流れは日を追うごとに早くなるように感じられます。こちらでの生活は順調に進んでいます。主な日々の流れは、月曜日から金曜日までは毎日学校へいきます。フィンランドの高校は日本の大学のような制度で、自分で好きな授業を選択して時間割を組みます。日にもよりますが朝 9 時から 15 時ごろまでの間に 2 ~ 4 コマの授業を受けます。授業ごとに教室を移動し、クラスメイトもそのつど変わります。クラブ活動のようなものはなく、放課後はすぐに学校をでて家に帰るか、町で友達と遊ぶかします。私は休日を含めた多くの自由時間をホストファミリーと過ごしています。そのホストファミリーは、留学支援団体の決まりのため、1 年間で 3 回交代することになっています。今は 2 つ目のホストに住んで 2 ヶ月目です。

この 6 ヶ月を振り返ってみると、今までの人生で「一番密度の濃い」期間だったと思います。知らない国にきて最初の 1、2 ヶ月は、見るもの聞くことすべてが新鮮で、毎日わくわくカメラを片手に過ごしました。8 月なのに暖炉をあたためたことや、見たことのないような台所用品、ホストマザーが毎日焼くフィンランドの菓子パンなど。

1 つ目のホストでの生活はフィンランドに慣れ、語学の基礎を固める期間でした。最初の 1 ヶ月が過ぎたころ、私は強くフィンランド語の習得を望むようになりました。とても親切なホストファザーが英語を話せなかったからです。そして私の希望に応え、毎晩リビングルームでホストファザーとホストマザーがフィンランド語の勉強を一緒にみてくれました。日本での予習をほとんどしていなかったため、一からの勉強となりましたが、教科書を購入し少しずつ自分で進めていきました。ホストが母国語の説明に苦戦することもよくありました。学校でも空き時間ができると教科書の問題を解き、友達が答えあわせをしてくれることもありました。毎日の積み重ねの甲斐があり 3、4 ヶ月経ったころには簡単な文章や会話は理解でき、自分でも書き話すことができるようになりました。ホストファザーとは片言の英語と、片言のフィンランド語で十分に意思疎通ができるようになりました。毎晩のフィンランド語学習に加え、世の中のさまざまなことについて議論するようになりました。フィンランドと日本の教育制度の違い、日本の侍について、家族について、将来について、内容は本当に多岐に渡りました。決して派手なことはしませんでした。1 年間の基礎になる大事な期間だったと思います。

今、2 つ目のホストでは「異文化体験」よりも「家族体験」をしていると思います。1 つ目のホストは私の日本の家族にすごく似ていてなんの苦勞もなく生活することができました。しかし、今の家族には同世代のホストシスターが 2 人いて、反抗期の真っ盛りです。私にとって、シスターとホストペアレントの空気感が今まで経験したことのないもので、居心地が悪いと感じることも少なくはありません。私は家族の新入りなので、相手と自分の間で誤解を生まないために、自分がどういうことが好きで、嫌いなのかを言うようにしています。

不満に思うことを相手に伝えることを怠り、一人で憤り溜め込むことは、その事実を知らない相手にとって公平ではないと思うからです。年上のシスターはフランスへの留学経験があり、そういったことに対しても一番理解があり、相談にのってくれ、アドバイスもくれます。

学校生活においても、留学経験者の存在はとても大きなものです。初期に話しかけてくれた友達や、ホームルームで手助けしてくれるのはやはり、元留学生の友達です。私も日本に帰って留学生と知り合ったら、必ず親身になってあげようと思いました。

フィンランドの学校ではフィンランド人の「他人への興味のなさ」を感じる事がたびたびあります。よくフィンランド人は「シャイだ」と表現されますが、私にはそうは思えません。確かに、私と友達になりたいのになかなか話しかけられなかったと言ってやってきた子もいました。しかし、多くの高校生は留学生、フィンランド人に関係なく自分の周りに新しいことが起こることに対して消極的です。それは日本でも同じなのかもしれないと思いました。やっかいなことはできるだけ避けて過ごす。そのため私は最初友達作りにとっても苦労しました。ただ学校に通っているだけではできないからです。

そこで私は毎日同じ帽子をかぶって登校することにしました。自分のトレードマークとし、私を覚えてもらうためです。SNS などのアドレスと写真を載せた友達用の名刺をつくりました。話しかけるきっかけ作りのために、スケッチブックとペンを持ち歩き、休み時間になるとランダムに話しかけ「日本に対してどんなイメージをもっていますか？」とアンケートのようなこともしました。こうした地道な努力のおかげで、顔をあわせると挨拶する友達がだんだん増えてきました。また一緒に遊びにいたり、家で映画をみたりするような親しい友達もできてきました。そのときにうまく壁を壊せたのはやはりフィンランド語ができるということです。この半年間で言葉ができるようになったのは、とても大きなことだと感じました。